



003_Nyorai and Houju

隠された 創業者の「決意表明と目標達成」のストーリー

2023年10月改訂 春日

MfG_J_pair_dragons_in_saffron_の一部を改変

- ① 鰻絵蔵の美
- ② 鰻絵の色（何故、この青）
- ③ その他、鰻絵蔵の見どころ

- ④ 何か、隠されていませんか
（何か、求めていく、大切なもの）
- ⑤ 何か、隠されていませんか
（何かに対する、祈りと感謝）

隠された 創業者の「決意表明と目標達成」のストーリー

祈りと感謝

- ・自身、吉澤家の商売成功・家運隆昌への祈りと、
達成への感謝
- ・訪問する顧客、周辺住民への感謝の心、喜ばせる心

このために、双龍、鬼瓦、四神・四霊、十二支、さらに「魔除け・招福」とありとあらゆるものを持ち込んだ。

娯楽、激励への喜び

驚き・美の堪能

謎解きの楽しさ

祈りと感謝の発見

鰻絵だけでなく、
不思議な庭園、
離れ座敷にも

サフラン酒では、まず『美』で驚かせ。
次に、ありとあらゆる『謎解き』満載。

裏に『祈りと感謝』があるように思えます。

1. いくつかの双龍、「昇り龍と降り龍」、 そして宝珠

右図は、かつて通用門の脇に立っていた
巨大な木彫の「大看板」の一部です。

中央部の大きさは 6.40mx1.94m。

(今は、道具蔵に横たわっています。)

明治44年作の「昇り龍と降り龍」は、
サフラン酒本舗の屋敷の中で、鬼瓦を
除いて、恐らく最初の双龍です。



建物の建造にも、段階的な祈りと感謝

1) 主屋建造、増築当時～明治27年(1894)、大正2年(1913)
鬼瓦に据えた龍に託した、守護神、火防が中心

2) 衣装蔵建造～鰻絵蔵建造 大正5年-15年(1916-1926)
地域安寧、五穀豊穰、商売繁盛、子孫繁栄を祈る道具立て

3) 離れ、庭園建造～昭和6年(1931)
家業が繁栄してきたことから、魔除け招福、祈りと感謝

サフラン酒本舗のメインテーマは何か



商品ポスター、そして
商品パッケージの
「二頭の龍と握る球」

薬師如来の象徴である
「宝珠を求め浄土を目指す
昇り龍と、それを手に入れ
下界に戻る降り龍」です。

サフラン酒の随所に、「双龍」と「宝珠」



もうひとつ、離れ座敷の二階 手摺りの宝珠



美しい曲面彫りの宝珠です。
手摺りを欄干に見立てた、装飾の
擬宝珠とも見えますが、単なる装飾
以上に、訴えてきます。
「大看板」の龍、昇り龍・降り龍が
求め、獲得し、人々に幸せを施す
宝珠も意図したと思います。

薬師如来、坐像台座の アトリビュート	機那サフラン酒本舗の装飾
昇り龍と降り龍の双龍 宝珠	鬼瓦、鋳絵蔵の軒下の双龍 鋳絵蔵の軒下の宝珠 離れ座敷二階の手摺り彫刻
葡萄唐草文様と四神	鋳絵蔵の外側
蕃人(ばんじん)	大看板の力士、十二支
葡萄唐草文様	鋳絵蔵

龍については、近代建築史の藤森先生は、30年以上前に訪問されて、数えておられました

龍が38 鬼瓦の大きな建物8棟として $8*2*2 = 32$
その他、池の噴水、離れの屏風...

鯉が10 衣裳蔵に二匹、コレクションの鯉仙人、
その他、池に大きな鯉...

藤森照信, "サフラン酒の蔵", 季刊銀花, 第64号(文化出版局1984)

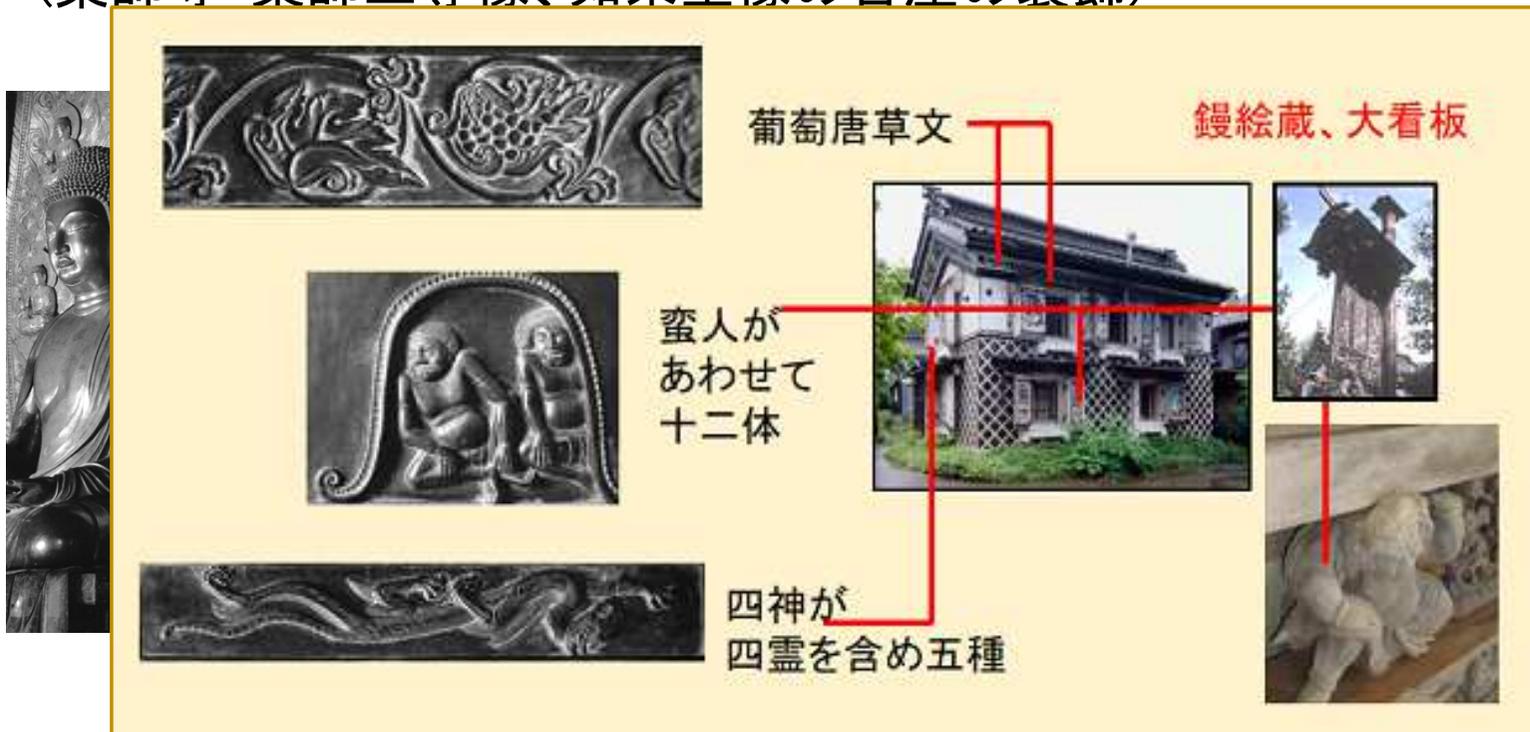
サフラン酒の随所に、「双龍」と「宝珠」（薬師如来）



ちょっと飛躍しますが・・・

薬師如来台座の装飾

(薬師寺・薬師三尊像、如来坐像の台座の装飾)



鰻絵蔵の装飾として、仁太郎さんが、薬師如来を荘厳する台座を意識したとしか、思えませんが、どうでしょうか。

鰻絵の創作の根源は？



幕末の木彫りの名匠・石川雲蝶の手になる、見事な「仁王像、そして道元と猛虎の大彫刻」が魚沼・西福寺に納められました。(施主は方丈の大瀧和尚)

今から百年前、長岡の片田舎で薬種製造を生業とした仁太郎さん、原料搬入や酒作りの繁忙期には、周辺の村人の手を借りざるを得なかったでしょう。村と一緒になければ、事業は成り立たない。そんな時代です。

たびたびの冷夏や洪水に悩まされつつ、農業に精出す周辺住民に、

頑張っている近隣の住民に、
『鰻絵』で、励ましと元気づけをしたい。
～ 魚沼・西福寺の巨大彫刻と同じでは



～ 共同体を守り、感謝する精神、今風にいえば、「町づくり、村づくりの心」かも知れません。

いろいろな見方を楽しんでいただけたらと、
存じます。

それこそが、創業者の思いだったのでは、
と思うのです。

本当は、もっと説明したかったのですが、
残りは、後で。

質問があれば、お聞きしますが、
現地ツアーのなかでも、受け付けます。
お話ししましょう。

